次世代ユネスコ国内委員会の概要

資料２－４

文部科学省

設置の経緯

- 2021年のユネスコ総会において2022～2029年ユネスコ中期戦略が承認され、「ユース」が「優先グループ」の一つに位置付けられたこと等を受けて、**日本のユネスコ加盟70周年(2021年）の機会に「次世代ユネスコ国内委員会」を組織**。
- 2022年：委員会として「ユネスコ活動の活性化に向けて（提言）」を発表。
- 2023年：日本ユネスコ国内委員会運営小委員会委員長の監督の下に「次世代ユネスコ国内委員会」を設置。

設置の目的

- 国内ユネスコ活動に関する若者世代のネットワークを強化
- 未来を担う若者からの声を我が国のユネスコ活動に反映
- 国際会議等における日本の若者からの発信力を強化

委員の構成等

- 原則18歳以上30歳未満。毎年４月に委嘱。委嘱期間は通算４年以内が上限。
- 委員数：2023年：20名　2024年：20名
  2025年：23名　2026年：13名
- 選考プロセス：公募→事務局による選考→運営小委員会委員長の指名→委員委嘱

主な活動実績

- **次世代ユネスコ国内委員会会議**の開催（2023－25年に年１回）
- **ユネスコの国際会議への次世代委員の派遣・出席支援**：
  15件の国際会議に延べ20名の委員が出席（2022－26年）
- 委員主体の企画による**「ユネスコ日本ユース・フォーラム」の開催支援**
  - 2023-25年度に計３回開催。全国のユネスコ関心層のユースやユネスコ活動関係者など延べ約500名が参加。
- 委員による自主活動（教育・科学・文化WG）の活動支援
- オンラインでの情報発信（Youth-note※）やセミナー等の開催支援

※ユネスコ未来共創プラットフォーム内のコラム

※ 2025年度から予算事業として実施（ユネスコ未来共創プラットフォーム事業で（公財）五井平和財団に委託）



「ユネスコ日本ユース・ネットワーク」構想について

文部科学省

５年間の成果

- **優秀なユースがユネスコ活動へ参画し、**委員主体の様々な活動が展開された
- ユネスコ国際会議への参加等を通じて、日本のユースが**国際的なユネスコの議論・活動に関与**することができた
- また、ユネスコにおける日本のユース及びユース政策のプレゼンスが高まった

更なる発展に向けて

- **世代や地域を越えたより数多くのユース**が継続的に参画できる仕組みが必要。
- ユースの自主性を生かし、様々なステークホルダーと協働できる仕組みが必要。

新しい枠組み（案）

「ユネスコ日本ユース・ネットワーク」を新設

- **二層構造**
  - **-活動の中核を担う中核層（10-20名）**
  - **-幅広い参加者による一般層（100名程度）**
- **日本ユネスコ国内委員会・文部科学省が認めるネットワーク（委員委嘱は行わない）**

目指す姿（案）

- **ユースとユネスコ関係者の連携による協働プロジェクト**を実施し、ユースの力を生かした日本全国のユネスコ活動の活性化を図る。
- 主に中核層の**活動の幅の拡大**。
- 主に一般層を**自由で開かれたネットワーク**とする。

協働プロジェクト（案）

【実施イメージ】

- 教育・科学・文化・SDGs 等をテーマに、ユネスコ登録サイトをはじめとした地域資源の保全・振興、国際協力・交流、国内外への情報発信などの取組
- ユースとユネスコ登録サイト、地域ユネスコ協会、自治体、学校、企業等との連携
- 地域や各登録サイトの課題解決・魅力発信・普及啓発につながる取組

今後のスケジュール

- 2026年9月－2027年2月
  ネットワークの形成に向けた実務的検討
- 2027年2月－３月
  日本ユネスコ国内委員会運営小委員会・総会
  （ネットワークの設立・始動について了承）
- 2027年4月
  活動開始